

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 2019年度自己評価表

I 教育目標

教育方針	学校教育目標
1 日本国憲法と教育基本法に則り、自由・平等・博愛と自主・自立・自存の精神を涵養する。 2 より文化的で、暮らしやすい社会の形成者として、希望と未来のある世界の構築に実践的に参画することの出来る、個性豊かな人材を育成する。	1 日々の授業を重視しながら、クラブ活動との協調的展開を志向する。 2 生徒の多様な進路希望を実現すべく、創意工夫と相互協力を旨とした教育を実践する。 3 生徒の自主活動を効果的に支援し、偏りの無い人間像の確立に努める。 4 いじめや体罰のない、生徒が安心して学校生活をおくることができる安全な学校づくりをする。 <hr/> <div style="text-align: center;">今年度の重点目標</div> 1 文武両道を目指した時間の有効活用を図る 2 多様な希望に沿った進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む 3 主体的な挨拶と清掃に取り組む 4 安心安全な学校を目指す

II 今年度重点目標に対する「評価項目」

【1 文武両道を目指した時間の有効活用を図る】

- (1)生徒が自ら具体的な学習目標を持つことができるよう、教科指導と進路指導を行う。
- (2)部活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進める。

【2 多様な希望に沿った進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む】

- (1)キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協調的・発展的助言をする。
- (2)外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起する。

【3 主体的な挨拶と清掃に取り組む】

- (1)自然な挨拶が出来る校風をめざし、良好な人間関係を構築する。
- (2)全員が主体的に清掃を行えるよう徹底する。

【4 安心安全な学校を目指す】

- (1)安心、安全の学校づくりをするため、懇談会等を利用して状況把握をする。
- (2)いじめ・体罰の未然防止のため、常に生徒・職員の意識の啓発に努める。

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 2019年度 重点目標自己評価結果

【本年度重点目標】 評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

項目	評価の観点	自己評価	関係者評価	成果と今後の課題・改善策
1 文武両道を目指した時間の有効活用を図る				
	(1)生徒が自ら具体的な学習目標を持つことができるよう、教科指導と進路指導を行うことができたか。	B	B	学年通信、学年集会等を通して、様々な場面で進路や学習に関する情報を提供することができ、生徒自身の意識は養われつつあるように感じられる。ただ個々での意識の差もあり、粘り強く指導を続けていくこと、そして更に工夫や検討を加えていくことが必要である。
	(2)クラブ活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進めることができたか。	B	B	クラブ活動と学習との両立がうまくできない生徒もいる。終了時刻の厳守や下校指導を徹底するとともに、家庭学習を充実させるため、両立への一層の働きかけが必要である。
2 多様な希望に沿った進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む				
	(1)キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協動的・発展的助言をすることができたか。	B	B	概ね目標に沿った取り組みが各学年通じてされている。今後さらに生徒の自主性をどう喚起し、十分な助言ができるか、学校全体として取り組んでいくことが必要である。
	(2)外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起することができたか。	B	A	講演会や出前講義等を行い、進路研究、学習に関して意欲を喚起することができた。さらに生徒の知的好奇心を刺激し、学習、進路研究につながるよう、時期や内容をよりよいものにしていきたい。
3 主体的な挨拶と清掃に取り組む				
	(1)自然な挨拶が出来る校風を実現し、良好な人間関係を構築することができたか。	A	A	A評価も53%あり、概ね良好である。学校全体が元気になるような、挨拶のできる校風作りに努めていきたい。職員からも積極的に挨拶や声かけを行っていきたい。
	(2)全員が自主的に清掃を行えるよう徹底することができたか。	B	B	自主的に清掃に取り組む生徒が多いが、全員清掃の徹底という点では十分でない面がある。生徒の自主性を引き出し、校舎内外の美化に積極的に取り組んでいきたい。
4 安心、安全な学校作りを目指す				
	(1)安心、安全の学校作りをするため、懇談会等を利用して状況把握をすることができたか。	B	B	保護者懇談、個人面談、地区PTA等を通して、状況把握と注意喚起に努めた。施設の安全面については、可能な限り対応をしたが、今後さらに対応をすすめていきたい。
	(2)いじめ・体罰の未然防止のため、常に生徒・職員の意識啓発に努めることができたか。	B	B	HRでの指導、学年集会、講演会等の全体指導を行うとともに、職員間できめ細かく情報を共有し、継続的な研修を重ね、意識啓発に努めたい。
【学校関係者評価委員からの主な意見】				
<ul style="list-style-type: none"> ・今後探究的な学びが実践され、生徒たちの思考力・判断力・表現力などが高まることを期待しています。 ・「3つの方針」や「グランドデザイン」が学校運営の骨組みとなり、これらをもとに一つ一つの教育活動が実践されることを願っています。 ・授業参加させて頂いた際の印象として、エアコンが整備され快適な空間で学習が出来、生徒の皆さんは集中していたと思います。また、電子黒板の導入で先生方の指導も実施し易くなったのではないかと感じました。 ・生活習慣病の為、日本の財政を圧迫しています。また自殺者が県は多いと聞いています。健康（心と体）は食を学ぶ事が何より一番大切な事と思います。食べ物不足せずあふれている時代、またこれから親元を離れる子供達に健康を守る食をしっかりと学ばせて欲しいと思います。 				

・蟻高生の活躍が多々報道され、問題行動が取りあげられる事もなく、豊かで落ち着いた学校生活を送れ「蟻高らしさ」の歴史が受け継がれていると思います。伝統の中に新たな事に挑戦され、今後の活躍が楽しみです。優秀でまじめな生徒さんを送ってくださることに感謝申し上げます。

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 2019年度自己評価表

【係】 評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の 4 段階

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
教務・コンピュータ・防災	1)生徒が主体となって取り組める学校生活を実現するために、授業や指導の改善をすすめる、行事の内容や実施時期を再考する。また、会議を減らし生徒の指導のための時間を確保しつつ、教員の働き方の見直しをする。	1)授業時間の確保と、行事内容の再考を進めつつ、新学習指導要領を見越した体制作りができたか。また、平日の放課後の時間を生徒や授業のために有効利用し、教員も超過勤務の是正が図れたか。	B	1)研究授業週間では ICT 活用授業の見学を行い、授業の改善につながる良い機会となった。次年度 2 学期制を導入するにあたり、授業改善につながるよう、授業時数の確保や行事の内容・実施時期について、関係部署との連携を深めたい。
	2)成績処理や生徒情報の取り扱いをより慎重に行う。HP 等で校内の情報を積極的に発信する。	2)データの流失や紛失、出入力の誤りなどが無いよう、全職員の意識を高めることができたか。	B	2)データの流失や紛失はなかったが、諸帳簿の誤りなどがあった。入力前と出力後に今一度注意を呼びかけ、意識を高めたい。HP の更新が円滑に行えるようリニューアルした。
	3)緊急事態に対する適切な対応をする。 防災対策を万全に行う。	3)避難訓練は円滑に実施できたか。防災対策は徹底されたか。	B	3)年 2 回の訓練を実施した。台風 19 号の際には生徒全員の安否確認を行い、短時間で全員無事が確認された。エアコン設置に伴い、下記の利用規定を一部見直した。引き続き検討・改善したい。
授業計画	1)適正な選択科目および講座配置の工夫 2)バランスのとれた考査時間割の作成	1)本校教育課程、入試科目、生徒の選択科目希望、教員定数などの総合的観点から、開講講座、時間割が適正であったか。 (教育課程移行期の工夫と教室配置の工夫) 2)年間考査時間割計画を作成し、バランスのとれた科目配置、監督配置ができたか。	A A	
PTA	1)PTA の立場からも「開かれた学校づくり」をすすめ、日常の活動の活性化を図る。	1)会報発行など全会員に PTA の情報発信ができたか。	B	総会は 200 名を越える保護者が出席した。
		2)地区 PTA を全地区で開催し、保護者の積極的な参加と学校に対する要望を聞くことができたか。	A	全地区で開催することができ、保護者・学校間の連携を充実させることができ、また生徒の活躍を映す DVD が好評だった。

生徒会	<p>1) 学校行事を通じて人間力を高め、人との絆や信頼を形成し、生きる力や自己肯定感を育てる。</p> <p>2) 地域社会や環境活動への広がりを持った取り組みを行う。</p>	<p>1) 各行事で自分の役割を認識し、生徒会やホームルーム活動に貢献できたと感じる事が出来たか。</p> <p>2) 自分たちに出来る、ボランティア活動・地域活動・環境問題への取り組みができたか。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>3年生を中心に生徒達が自主的・積極的に各行事の計画や運営を行い、よい成果を収めることができた。</p> <p>ぎんが祭バザー売上げ金によるカンボジアへの教育支援が今年度も継続できたことは評価したい。自分たちの身の回りでの地域活動や環境問題への取り組みについては、多くの生徒達が自主的・自発的に動けるような方向に持って行けたらよいと思う。</p>
	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
生徒指導	<p>1) 生徒が日々安心して安全に、いじめなどのない学校生活を送れるようにするための支援活動</p> <p>2) 学校生活において支援を必要とする生徒への適切な対応</p>	<p>1) 校内の見回り、生徒への交通安全、スマートフォン使用マナー、貴重品管理などの注意喚起や各種講演会等の実施を通して、生徒の生活全般に安全管理が適切に図られたか。</p> <p>2) 生徒支援委員会と連携し、全教職員と情報共有を図り、生徒支援を共通の課題として取り組むことができたか。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>1) 昨年度に比べて交通事故(自転車事故含む)、問題行動の件数は激減したが、現実報告のないものがあるのではないかとと思われる。</p> <p>スマホ使用は規制も必要か?</p> <p>2) 早い段階で情報を収集しての対応ができていると思う。今後も職員課員での情報共有はリアルタイムで行いたい。</p>
進路指導	<p>(1) キャリア教育の観点による、3年間を見通した体系的かつ効果的な進路指導を行う。</p> <p>(2) 必要な時期に、必要な情報・資料を、効果的に提供する。</p>	<p>① 時機に応じた効果的な講演会・学年集会等を計画し、実施できたか。</p> <p>② 全国的な進路状況や様々なデータを通して、個々に応じた進路指導方法を研究・実践できたか。</p> <p>③ 各学年で複数回の進路検討会をもち、生徒に適切なアドバイスができたか。</p> <p>① 学年毎に進路・学年通信を発行する等、的確な情報提供ができたか。</p> <p>② 常に生徒の進路意識を喚起し、学校全体が学習に向かう雰囲気作りに努めることができたか。</p> <p>③ 必要な資料を、生徒が利用しやすく整理・提示することができたか。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・各学年とも、予定通りに計画、実施できた。来年度も、1年間を見通した適切な計画・実施を心がけたい。また、例年好評な、保護者向け進路講演会や2年次の大学模擬講義などは、今後も継続していきたい。</p> <p>・大学入試の変革期を迎え、各大学の入試環境の変化に対応するための研究と実践を、今後も続けていきたい。</p> <p>・3学年では、7月より compass を使い、より具体的な形で行えたが、全クラスの検討は行えず残念であった。進路検討会を複数回行うことにより、個々のクラスだけでなく、学年全体に目配りをした進路指導を行っていく契機としていきたい。</p> <p>・各学年とも進路・学年通信が時機に応じて発行され、適切・的確な情報提供を行えた。</p> <p>・生徒に対し、講演会や通信等を通じて、進路や進学に関して、安易な方向に流れずしっかり考え抜いて決断するという意識を高めるために、時機を捉えて喚起し、学習のためのより良い雰囲気作りに努めていきたい。</p> <p>・送られてくる資料に比して掲示場所の不足を感じるが、今後も生徒のニーズに応えた適切な整理・掲示を行ってきたい。</p>

学習	1)生徒の学習への意識を高め、基礎学力の定着と知的好奇心を涵養する。	1) 授業・補習・家庭学習を連携させるための指導や助言ができたか。	B	1)学年担当が主体となり、生徒の意識や実態を見ながら適切な指導ができたと考ええる。家庭における課題については、検討し教科で考えていただく。
	2)学力向上や進路実現のため、補習授業および特別編成授業などの企画運営をおこなう。	2) 授業や模試の復習など生徒の実態に合わせた補習授業および特別編成授業など適切な企画運営ができたか。	B	2)特別編成授業については、出席した生徒については満足を得られているが、特定の生徒の欠席が多くみられ、検討しなくてはいけない。

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
保健環境(保健)	1)心身の健康管理を適切に行う。	1)生徒健康状況や治療状況を把握し治療勧奨や適切な健康管理・健康相談ができたか。「心の健康問題」においては担任、生活指導、支援委員会等との連携が適切にとれたか。	B	心の問題同様に身体的に配慮を必要とする生徒にも配慮・支援していく事が今後必要。 今後支援が必要な生徒が増加多様化する可能性があるため外部との連携も図っていききたい。
	2)健康教育の充実	2)保健日よりや保健委員会活動等などを通じて、充実した健康教育を行う事ができたか。	B	生徒会・保健委員会と連携して、保健日より等で健康教育を行った。
	3)環境衛生活動の充実	3)環境衛生の定期日常点検が適切に行われたか。 検査、点検の結果、改善されたか。	B	1年生への性教育講座等も今後継続したい。 定期点検・検査等は適切に行われた。施設の老朽化が一層進み早期に改善の必要性のあるものについては、庶務で対応した。しかし、今後対策が必要な箇所は増加すると思われる。
保健環境(清美)	1) 校舎内外の清掃を徹底することで、学びやすい環境を整え、生徒の自主性も伸ばす。	1) 清美委員会の自主的活動を活性化させるとともに、全校生徒による校舎内外の美化と学習環境の整備につとめることができたか。「全員清掃」がきちんと実施できたか。	B	1) 引き続き、職員も一緒に清掃活動に取り組む態勢作りが望まれる。
	2) ゴミを分別する習慣を生徒につけさせるとともに、ストックヤードを生徒が管理していきける自主性を育てる。	2) ゴミの分別がルールに従ってでき、ストックヤードの管理が委員会を中心に行うように指導できたか。ゴミをできるだけ出さない指導に次第に移行できたか。	A	2) 生徒の献身的な取り組みが、学習環境を整えることに寄与している。本校の伝統として「全員清掃」を来年度も継続したい。

保健環境(園芸)	<p>1) 中庭花壇の整理整頓・管理</p> <p>2) 式典用の鉢花管理・装飾 中庭花壇の除草</p>	<p>1) 園芸委員会の年間活動が計画的で充実した内容になるよう組織的に行うことができたか。</p> <p>2) 卒業式・入学式における式典用鉢花の栽培管理、式場の装飾を自主的に行うことができたか。</p> <p>清掃分担のクラスと協力して除草作業を計画的に行うことができたか。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>花壇内にあったコンポストの撤去や定期的な除草作業など委員全員で取り組む事ができた。</p> <p>式典用の鉢花の花壇への植え替えと管理を行った。</p> <p>落葉掃除は清掃分担のクラスがしっかり取り組んでくれた。</p>
	図書	<p>1)質の高い読書人を育てる。</p> <p>2)授業との連携をはかる。</p> <p>3)生徒図書委員会活動の活性化を進める。</p>	<p>1)①適切な情報発信・資料更新ができたか。</p> <p>②生徒・教職員の読書環境を整え、向上させることができたか。</p> <p>2)各学年・教科・係等と連携を図りながら、授業や特別活動や進路に役立つ資料提供ができたか。</p> <p>3)図書委員会活動が活発に行われたか。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>
	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策

視聴覚	1)芸術鑑賞の円滑な運営を図る。	1)芸術鑑賞が円滑に運営できたか。また、生徒の心に残る鑑賞会となったか。	A	鑑賞委員が主体的に動くことができ円滑に運営できた。アンケートで評価の高い鑑賞会になった。
	2)合唱コンクールの円滑な運営と内容の充実を図る。	2)生徒会鑑賞委員会の活動を支援し、合唱コンクールの内容の向上に務めることができたか。ゆとりを持った準備期間を提案し、次年度以降にも継続性のあるものにする事ができたか。	B	鑑賞委員が主体となり運営はスムーズに行えたが、進行で改善できる点(時間削減)を実行して更なるゆとりを持たせたい。 準備期間にゆとりを持たせることがうまくできなかったため、新年度の始まりから、特に初参加の1年生を重点的に準備の支援を行いたい。
	3)視聴覚教室の整備と有効活用を図る。	3)授業や生徒会、クラブ活動等において視聴覚教室が有効に活用されたか。また、自習室としての管理が十分に行えたか。	A	掃除機を導入し、清掃活動はより入念に行えた。 3年生のための自習室としての利用など年間通して有効活用された。
同窓会	1)同窓会と学校が連携して活動をおこなう。	1)①同窓会と学校の連携は進んだか。 ②生徒会、PTA、学校、同窓会でおこなう四者協議会での連携が進んだか。	B	同窓会との連携は今後も絶対必要なものなので、引き続き強化を図りたい。

【委員会】

評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
教育課程	1)本校の教育課題を踏まえ、教育課程を精査する。	1)本校の教育課題および教育課程について議論を充分に行なうことができたか。	B	・精査したが、思うように時間がとれず、議論を充分に尽くしたとは言えない。議論する時間の確保が必要。
	2)上記の精査を基に、新学習指導要領を視野に入れ、魅力的な教育課程への改善および編成を進める。	2)可能な改善を細部まで検討できたか。	B	・本校の将来像を全職員で共有し、新教育課程の検討、編成をしていく必要がある。
予算施設	1)2019年度備品費・遠征費の希望調査を行い、適切に調整し対処する。	1)各教科等の意見を取り入れながら適切に対応できたか。	A	1)備品はプールのコースロープ LL教室のテレビを家庭科で運用 コピー機を社会科と体育科に入れることができた。
	2)施設面の運用について問題となっている事項を検討し、具体的な解決をはかる。	2)施設の有効運用、配置を提案し、具体的に解決をする。	B	2)まだ足りない部分については要望を聞きながら改善していきたい。

学校衛生	働きやすい安全な職場環境や健康の保持増進を図る。	1) 委員会を定期的に開催し問題点を共有できたか。 2) 職員健康診断（人間ドック）の全員実施ができたか。 校内の危険個所の点検及び改善ができたか。	A B B	定期的な開催ができた。 健康診断対象者は全員実施。 人間ドック受診対象者には受診勧奨を行った 校内の職場点検を行い併せて職員の意見を聞き、可能な範囲で危険箇所の修繕を行なった。
生徒支援・いじめ防止	1)いじめの未然防止のため、いじめ防止基本方針を徹底し、生徒指導・学級活動・特別活動等を通じて、いじめの起きにくい集団作りを行う。 2)相談体制の充実やアンケート調査などにより、いじめの早期発見に努める。 3)いじめの対応には組織的・継続的に当たり、早期解決と再発防止に万全を期す。	1)諸活動を通じて、自己肯定感と他者理解に裏付けられた集団作りができたか。 2)いじめの早期発見と、解決、再発防止が連携をもってできたか。	B B	生徒を肯定的にとらえ、これからの人生を乗り切るための資質を身につけられるように努力したい。 この1年で問題になったいじめ案件は1件だった。これからも生徒アンケートなど生徒情報の収集につとめたい。担任と学年との連携に課題があった。日常の生徒の変化を逃さず、問題が大きくなる前に未然に防げる体制づくりに努めたい。
銀河セミナー推進	1)計画する講座に生徒が意欲的に参加し、学力向上・学習成果が実感できるような工夫に努める。 2)生徒のキャリアへの意識や人権への意識の向上を促す教養講座を企画・開催する。	1)生徒の自己啓発を引き出し、計画的な参加による学力の向上に繋げることができたか。また、3年生においては、夏期補習及び早朝・放課後補習等と関連づけ、受験や進路先での学力をつける一助になったか。 2)生徒の社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育てることができたか。	A B	学年による多少の差はあるが、生徒が積極的に参加し、学力向上を目指して学ぶことができた。 事前学習や事前指導が十分に行き渡らなかった。
	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
学校評価	1)生徒・保護者・職員・地域の意見を吸い上げ、学校改革や改善に反映すべく、各分掌に働きかけを行う。	1)四者協議会や学校評議員会、各種アンケートで得られた意見を、各分掌にて検討し、学校改革や改善に繋がるよう促すことができたか。 2)各種アンケート類の回収率が7割に達したか。	B B	四者協議会や学校評議員会を通じて、貴重な意見交換を行うことができた。アンケートの回収率もほぼ7割を達成できた。寄せられた意見や会議の際に話題になった事項を真摯に受け止め、より良い方向に改善していくよう各分掌に働きかけたい。
コンプライアンス	1)学校内、職場内のさまざまなハラスメントを防止する。	1)セクハラ・パワハラ等のない、毎日気持ちよく生活できる学校・職場であったか。	B	1)あらゆる非違行為の注意喚起を行うことができた。今後、一層、風通しのよい学校・職場づくりに努めたい。また、次年度も研修会を予定し、計画的に実施したい。

危機管理対応	生徒が安心して学び、教職員が安心して教育活動ができるよう、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	1)生徒や教職員が安心安全に生活を送ることができたか。 2)危険の予防、迅速な対応、再発の防止に取り組めたか。	A A	1)大きな事件・事故もなく、一年間を送ることができた。 2)台風被害を受け、ハザードマップを掲示するなど、防災意識の向上を図った。
学校保健	生徒が自ら健康を守るための行動選択をする。	1)健康診断で健康状況を把握できたか。 2)保健委員会では三役を中心に行事等における緊急時の対応ができたか。	B	健康診断を通じて、健康を把握し、必要な場合には、検査を受け、健康の保持増進に向けて努力している。 行事等では、大きな負傷などなく、整然と行われて、良かった。
キャリア教育	学校諸活動及び就業体験活動内の様々な学習や体験を通じ、勤労観・職業観の形成促進、基礎的・汎用的能力育成、将来設計と社会参画の意識の醸成を目指す。	1)全職員がキャリア全体計画をふまえ、学校の諸活動すべてをキャリア教育の場として考え、取り組みや指導に反映させたか。 2)様々な学習や体験を通じ、将来設計と社会参画を生徒に意識させる取り組みをしたか。 3)生徒に対し、就業体験活動の事前・当日・事後の指導を行い、レポート作成や情報共有化の機会を与えたか。	B A B	1)全体計画は全職員に共有されていると思われる。生徒の多様な希望に添う指導は時間的な問題もあり完全ではない。 2)体験プログラムの周知・公欠に参加保証・教員からの呼びかけなど有効に機能している。 3)事後指導については改善の余地がある。
学校企画	1)高大接続改革を見据えた年間行事計画を、各係と連携しながら作成し提言する。 2)2020年3月公表に向けた「3つの方針」を策定する。	1)年間授業日数が昨年度を下回らないよう、授業時間数の確保をしつつ、授業・行事ともに生徒が主体的に取り組めるような、魅力ある年間行事計画の提言ができたか。 2)昨年度の反省を踏まえ意見を集約し、1学期中に作成することができたか。	B B	1)大学入試共通テストの内容変更に伴い、情勢を見極めつつ対応する必要あり。来年度は東京オリンピック開催に伴い祝日の変更されたため、授業時数の確保と7月の多忙化の解消のため2学期制の導入を提案し承認された。初年度は様々な問題が起こり得るので適切に対応していきたい。 2)1学期中に原案を作成することができた。各方面からの要望を受け、3月公表に向け、現在最終調整をしている。(1/24現在)
	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
探究・総学推進	生徒自身が自ら課題を持ち、フィールドワークやICT機器を使いながら情報を収集し、自らの力で解決していく力を養うための活動を提案していく。	自主的かつ自らの課題に応じた実践的なフィールドワーク、ICT機器を活用して行えたか。 生徒自身が課題を見つけ解決していく能力が身についたか。自らの学びや考えを、他者に対して伝える力がついたか。	B	校内のW I F I 環境が整ったため、インターネットを使用した調査は効率よく行えた。そこに依存しないようにすることが今後の課題である。 フィールドワークとして多くの生徒が郊外へ赴き、インタビューしたり、調査を行った。

【学年】

評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の 4 段階

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
--	------------	-------------	----	--------------

3学年	<p>1 生徒の進路実現のために、学びやすい環境を整え、基礎学力の向上を図る。</p> <p>2 基本的生活習慣の定着をさらに進めるとともに、様々な面で支援を必要とする生徒に個別に対応する。</p> <p>3 学習・課外活動両面で自主性・主体性の確立をめざし、学習と特別活動がバランスよく両立できるようにアドバイスをを行う。</p>	<p>1 学年職員の中で有機的な連携を保ちつつ、生徒の進路実現に向けた学習や進路の指導ができたか。</p> <p>2 生徒が抱えている課題に対して、柔軟に対応し、個別指導を含む効果的な指導・支援ができたか。</p> <p>3 生徒の自主性・主体性の確立を重視しつつ、学習と特別活動の両立に留意した支援ができたか。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>進路・学習係と連携し、生徒の望む進路実現に努めた。</p> <p>学年会で、生徒の状況を共有し、生徒支援係と連携し、最後まで支援に努めた。</p> <p>先生方の指導に支えられ、クラブ、ぎんが祭、合唱コンクールなどで頑張り、良い思い出を残せた。</p>
2学年	<p>1) 基本的生活習慣、学習習慣を確立し、進路実現につながる基礎学力を充実させる。</p> <p>2) 学習・課外活動を両立し、それぞれの活動で自主性・主体性が育つように助言・指導する。</p> <p>3) キャリア教育をとおして、将来の職業観を養うとともに、人権感覚・コミュニケーション能力を高める支援を行う。</p>	<p>1) 職員間で連携をとりながら、一人一人の生徒が個に応じた成長できるように授業や教材を工夫し、指導をすることができたか。</p> <p>2) 目標をもって学習、課外活動に取り組むように生徒の意識を高めることができたか。今後の取り組みに活動の反省を活かせるように指導・助言できたか。</p> <p>3) キャリア教育、学校生活をとおして指導力・協調性・企画力などを育てるとともに、将来の職業観を養い、進路目標を考える指導・助言を行うことができたか。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>1) 昨年に引き続き、清掃では毎日熱心に雑巾掛けに取り組んでいる。スマホについては、使用の仕方・時間等HRを通じて適切な利用、マナーを呼びかけた。調査毎にフォローアップ講座を実施し、基礎学力が不足する生徒への指導を行った。また新テストを意識し昨年に引き続き英検受験を奨励し、教材としても使用した。また記述に対応する授業を各教科で行うことができた。</p> <p>2) クラブ活動を熱心に取り組み、学習との両立を課題としている人が多い。個人面談や毎学期実施した学習実態調査を通して、生徒自身が自分を振り返り、目標、計画を持つように指導した。その点、悩んでいる生徒もいるので、適切な助言を今後も与えていきたい。</p> <p>3) 学年行事では、県内・近県の大学、企業を見学し、研修旅行では、リノベーション施設の見学、企業訪問等を実施し日本の現状について知見を深めた。班別、クラス別の行動を通して進路や職業に関する意識を高めることができた。HRで継続的に行っている小論文指導や、探究活動を通してグループごと意見交換をしたり、生徒同士がコミュニケーションをとりながら物事を考えるように配慮した。</p>
	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策

<p>1学年</p>	<p>1) 基本的な生活習慣を確立し、充実した学校生活を主体的に送ることができるよう指導する。</p> <p>2) 生徒の進路保障のために、基礎学力をつけていくための支援を行う。</p> <p>3) キャリア教育や人権教育を通して、「人間を大切にする」気持ちを育てる。</p> <p>4) 自ら考え、自ら行動する力を育成する。</p>	<p>1) 心身の健康に留意しながら、遅刻や欠席をせず、主体的に授業や生徒会活動、クラブ活動、清掃、挨拶等に取り組むための支援ができたか。</p> <p>2) 通常の授業やぎんがセミナー、フォローアップ講座、学習強化週間、各種検定などを通して、生徒個々に学習の支援をすることができたか。</p> <p>3) 学校生活を通して、思考力・リーダーシップ・協調性・行動力などを育てるとともに、将来の職業観を養い、人権感覚を高める指導ができたか。</p> <p>4) 探究学習を通して、他者と協働しながら自ら課題を見つけ、それを解決していくための指導、支援ができたか。</p>	<p>B</p> <p>・多くの生徒が遅刻・欠席が少なくしっかりと学校生活を送っている。清掃も毎日雑巾がけを行うなど学年全体として一生懸命取り組めた。学年として、もう少し笑顔で大きな声で挨拶ができたらいいなと感じ、今後も呼びかけていきたい。</p> <p>B</p> <p>・ほとんどの生徒が部活動に加入し、日々研鑽を積んでいる。勉強との両立に必死に取り組んでおり、今後も指導・支援を継続していきたい。</p> <p>B</p> <p>・試験前に前回の成績不振者を対象に指導に取り組んだ。ただ、日程的にできなかったときもあり、毎回の実施を継続していきたい。また、銀河セミナーは比較的多くの生徒が意欲的に受講した。この意欲を大事にして、今後も支援をしていきたい。</p> <p>B</p> <p>・探究オリエンテーションや講演会を通して、進路選択や職業観について学ぶことができた。</p> <p>B</p> <p>・探究の時間において様々なテーマについて、自ら考え、またグループ学習を通して他者と協働しながら意見を交わしたりまとめたり発表することができた。課題研究においても自らテーマを考え、そのテーマに沿って時には自ら足を運んで取材をするなど、積極的に調査活動・取材活動を行っている。今後、研究をまとめるに当たって、適切な助言、支援を行ってきたい。</p>
------------	---	--	--

【教科】

評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
国語	1) 主体的な学習態度の育成。	1) 生徒による家庭学習(特に授業の予習と復習)は、質量両面で改善できたか。	A	1) 教科としては十分に指導体制を組むことができた。他教科との負担バランスなどにも配慮する必要がある。
	2) 的確な学力診断に基づいた国語指導スキルの向上。	2)-1 シラバスの内容を検討し、適切化をはかり、効果的に運用できたか。 2)-2 定期考査及び模擬試験の結果を分析し授業の改善につなげることができたか。	B	2)-1 シラバス通りに進めることはできなかったが、生徒の実態に応じた対応ができた。 2)-2 検討する時間の不足等もあり、評価を十分に改善に生かすことはできなかった。
地歴・公民	1)授業、補習、特編を充実させるとともに、相互の関連にも留意して学力の向上を目指す。	1)学力向上に資する連関ができていたか。	A	1)夏季補習や放課後補習、特編などを計画的に実施し、センターや国公立二次、私大向け対策を行うことができた。
	2)個人研修の充実と、教員相互の研鑽を図り、教科指導の更なる充実を目指す。	2)教科内で有効な研修が実施できたか。	B	2)探求的な学習やセンター試験廃止後の入試を見据えた研修・研鑽により努めたい。
数学	1)基礎力・家庭学習の確立	1) 小テストを活用し基礎力の定着を図り、家庭学習で自ら計画的に取り組む姿勢を育てることができたか。	B	定期的な補習や課題を行うことによって、計画的に家庭学習に取り組む生徒は増えてきた。しかし、まだ不十分な生徒も多く、今後の課題である。
	2)応用力の養成	2)問題集・参考書等の発展的問題に積極的に取り組む姿勢を育て、さらに解く力をつけさせることができたか。 問題集や課題への取り組みを指導することができたか。	B	具体的な指示をすると取り組む生徒は多いが、積極的に取り組む姿勢を身につけることは今後も課題である。課題の量も含め、自発的に取り組めるような方策を検討していきたい。
理科	1)新課程において効果的な理科教育課程にするため、各科目の内容についても研究を進める。	1)復習プリントや小テスト、演習等の実施により、基礎学力を向上させ、大学受験にも対応するための努力をしたか。	A	教科書の徹底的な読み込みを指導し、演習等もあわせて行い、基礎学力の向上に努めた。今後も教科書の十分な理解をするようアドバイスをしていきたい。
	2) 授業内容の充実	2)4分野が有機的に関連した、バランスのよい、効果的かつ受験にも対応できる授業内容を検討できたか。	B	4分野を有機的に関連付ける部分は不十分だった。受験対応できる授業に関しては概ね行うことができた。科会等で4分野をオーバーラップした話し合いを積極的に進めていきたい。
	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策

保健体育	<p>1)自分の体力を客観的に捉え、補うべき体力を知ると共に、将来にわたって健康を保持増進できる知識と体力を養う。</p> <p>2)心身の健康や安全管理に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲の育成</p>	<p>1)スポーツテストや日々の授業の中で自分の体力で補うべき点が理解出来るだけでなく、運動の楽しさを味わい、集団における自らの役割を自覚し互いに協力してスポーツを実践していく中で、スポーツを身近に感じる事が出来たか。</p> <p>2)保健を学習する事により、現代社会における健康の問題点を知り、それを解決する方法を学習し、実践する意欲を育てることができたか。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・体力テストなどでは、向上心をもって身体作り運動に取り組むようになってきた。今後はさらに早い段階で考える授業、自主性を育成する必要がある。</p> <p>・保健のでは、ICT を活用した授業の取り組みをおこなった。次は生徒同士が考える授業、また生徒自身から発信、提案できるように進めたい。</p>
芸術	<p>1)生徒が意欲的に取り組む授業の実践</p> <p>2)芸術文化に対する理解を深め、尊重する態度の育成</p> <p>3)生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。</p>	<p>1)生徒が、意欲的に取り組める題材設定、授業形態の工夫を行えたか。</p> <p>2)諸外国の芸術文化に加え、特に日本の芸術文化に対して理解を深める鑑賞活動を取り入れることができたか。</p> <p>3)表現・鑑賞にかかわる幅広い活動を通して、基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うことができたか。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>1) いずれの題材においても、生徒の意欲を刺激し、主体的な活動が見られた。</p> <p>2) 鑑賞を通し、日本の芸術文化に対して理解を深めることが出来た。</p> <p>3) 基礎的な能力を養い、発展的な表現につなげることが出来た。</p>
家庭	<p>1)大きく変容していく社会の中で、未来をつくる人として、生活の充実・向上を図る能力と実践的な態度を育成する。</p> <p>2)個々の小論文・面接指導はもちろん、日常の学習の中でツグツグの育成を図り、自分の意見を持ち表現する力を育成する。</p>	<p>1)生徒が主体的に取りくめるような授業内容・実習課題を設定することができたか。</p> <p>2)生徒の進路実現に向け、適切な学習指導・小論文・面接指導を行うことができたか。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>1)民法改正、選挙権年齢引き下げ、税制改革、諸表示改正など変化する社会へ対応できるような授業を展開することができた。</p> <p>2)授業内でも、記述課題を設けるなどの取り組みができた。また、聖十字幼稚園訪問や社会人講師の活用など進路選択の機会を設けられた。3年生については、指導の開始時期を早められるとよい。</p>
情報	<p>1)主体的な学びと情報活用能力の育成</p> <p>2)コンピュータの実習を通じての学び合い</p>	<p>1)実習を通し、生徒の主体的な学びと情報活用能力育成を目指した授業を展開できたか。</p> <p>2)文書作成、表計算、プレゼンテーションの実習を通し、生徒が興味を持ち、協働しながら実習ができたか。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>おおむね目標は達成できた。</p> <p>1年生は講義形式、2年生は実習形式の授業に意欲的に授業に取り組んでいた。協働しながら問題解決型の実習を取り入れることはできなかった。次年度へ向けての課題としたい。</p>
評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外国語</p>	<p>1)生徒が自ら進んで英語学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>2)希望進路実現のために必要となる生徒の英語力を伸ばす。</p>	<p>1)基礎的な事項の定着を図るとともに、授業で生徒が行う言語活動をバックアップしながら、生徒一人一人がそれぞれの目標に応じて英語学習に取り組むことができるよう指導・助言を行うことができたか。</p> <p>2)大学入試センター試験を始めとする入試問題の研究、模擬試験等の結果の分析を行い、適切な指導・助言を行うとともに、新テストにおける外部試験の導入にも適応できるような、英語検定の受検促進を含めた枠組み作りや授業の在り方及びその方策を考えることができたか。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>1) 電子黒板を含めた AV 機器と生徒の理解を深めるために工夫して作成したワークシートを活用して、生徒たちが自主的に英語力を伸ばせるように働きかけることができた。</p> <p>2) センター試験に対する指導はしっかりできた。共通テストや外部試験については、英語検定の受検促進を続けながら外部模試の問題研究等を通して、共通テストや他のテストに対応できるような授業の在り方を考えていきたい。</p>